



国際

沿岸レポート

濱口梧陵国際賞授賞式



一般財団法人沿岸技術研究センター
研究主幹 西園 勝秀

わが国の津波防災の日である11月5日が、2015年12月の国連総会において「世界津波の日」に制定されました。これを機に、国土交通省、内閣府政策統括官（防災担当）等の皆様からのご後援をいただき2016年創設された「濱口梧陵国際賞」は、津波防災をはじめとする沿岸防災技術分野で顕著な功績を挙げた国内外の個人又は団体を表彰するものです。

今般、2020年の受賞者が次の2名・1団体に決定し、11月4日（水）に海運クラブにて授賞式が開催されました。

○今村文彦 東北大学災害科学国際研究所長 教授

・30年以上にわたって津波防災・減災技術開発、津波数値解析、津波被害調査などを実施。津波数値モデル技術移転国際プロジェクト（TIME）責任者として国内外で活動。中央防災会議専門調査会委員などを歴任。

○Costas Synolakis 教授 南カリフォルニア大学

・1980年代後半に、勾配のある海岸への孤立波の遡上に関する解析解を発表。米国立海洋大気庁等が運用する標準的な津波浸水モデルであり、世界中で使用されているMOST（Method Of Splitting Tsunami）モデルを開発。

○アチェ津波博物館 インドネシア共和国アチェ州

・2004年のインド洋大津波を忘れないための象徴として、また災害軽減のための教育センターとして設立。平日2,000～3,000人、週末には6,000人も若者や外国人が訪れ、津波の脅威を学ぶ。

（※）濱口梧陵氏は、150年ほど前の江戸時代末期の安政南海地震で自らの資産を投げ打ち村人の命を津波から守った人物



今村文彦 教授



Costas Synolakis 教授



アチェ津波博物館長 (Ms. Hafnider.)



授賞式